

星空案内人資格認定制度の実施について

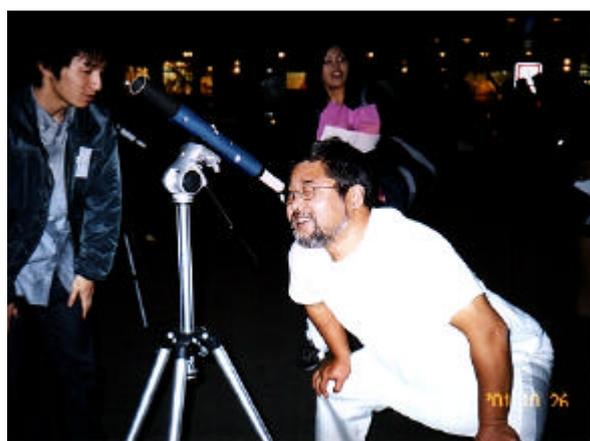
柴田 晋平(山形大学・NPO法人小さな天文学者の会
ほか 星空案内人資格認定制度運営委員会)

1. 星空案内人(星のソムリエ)

豊富な知識と経験からおいしいワインを選んでくれるソムリエのように、星空や宇宙の楽しみ方を教えてくれるのが星空案内人(星のソムリエ)です。より多くのみなさんが、星空案内人として公開天文台・科学館・学校などで教育・指導にあたりたり地域のボランティアとして活動して下さることを期待して、「星空案内人資格認定制度」を創りました。

ボランティア養成のように書きましたが(もちろんそれもありますが)、全国津々浦々に星空案内人がいて日常的に宇宙を語り星を愛でる社会になることを目指しています。

養成する人材のイメージは、例えば、天文台でガイドツアーをする人、観望会で説明する人、職場からの帰り、一番星をみながらそれについて語れる人。



2. 簡単な歴史

- 1998年 山形大学と小さな天文学者の会の連携活動の始まり
- 2003年10月 やまがた天文台が星空ガイドツアーによる一般公開開始。このときから、星空案内人制度、認定講座仮運用開始(大学の望遠鏡の定常的な一般公開は難しい →tenkyonet 思い出)
- 2004年 荘内銀行「ふるさと創成基金」により講座整備
- 2006年6月 JSTモデル事業により大幅に整備
- 2007年4月 新制度でスタート。全国で実施できるようにするための実験を推進。制度の実施団体募集中

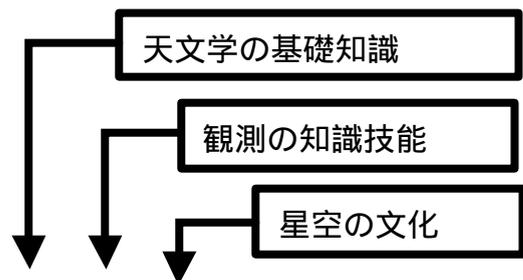
3. 資格制度の中身 資格は2段階になっていて、準案内人と案内人がある。案内人の資格は、星空ガイドツアーが一人前にできるというのではなく、その一步手前まで来た、というレベルで敷衍はできるだけ低く抑えてあります。ここまでくれば自力で立派な案内人に成長することが経験的にわかっているからです。また、準案内人でとどまる人もかなりいますが、これも非常に貴重な人材です。わが子・家族・友人たち星や宇宙のことを語り、星空や宇宙を文化のレベルまで普及するのはむしろこの人材かもしれません。星や宇宙の話が日常生活で語られるような状況を作り出すのが最終目標です。

表1:資格要件 →

科目		準案内人	星空案内人
必修科目			
「さあ はじめよう」	講義科目	単位取得	単位取得
「望遠鏡のしくみ」	講義科目	単位取得	単位取得
「星空案内の実際」	実技科目	受講	単位取得
選択科目			
「宇宙はどんな世界」	講義科目	3科目以上 受講	3科目以上 単位取得
「星空の文化に親しむ」	講義科目		
「星座をみつけよう」	実技科目		
「望遠鏡を使ってみよう」	実技科目		
<small>講義科目の単位取得には、講座出席と単位認定レポートの合格が必要です。 実技科目の単位取得には、講座に出席と単位認定チェックシートによる実技試験の合格が必要です。</small>			
<small>単位認定レポートおよび単位認定チェックシートはこちらからダウンロードできます。 →</small>			

4. 講座内容：

幅広く学ぶことを重視して、星空案内の実践に即しています。また、資格に関係なく受けることもでき、宇宙について全体を学ぶことができる講座という意味でも非常に貴重な講座となっています。開講当初からその貴重さを裏付けるように、遠く東京から山形まで通われた方が何人もおいでです。



さあ、はじめよう (星空観察に関する基礎知識)	必修	色1	色2	色3
望遠鏡のしくみ (天体望遠鏡の原理および構造)		色1	色2	色3
星空案内の実際 (普及・教育活動の実践的技能)		色1	色2	色3
宇宙はどんな世界 (天文学、宇宙物理学に関する基礎知識)	選択	色1	色2	色3
星空の文化に親しむ (星空や宇宙に関する文化的背景)		色1	色2	色3
星座をみつけよう (肉眼による観察に関する基礎技能)		色1	色2	色3
望遠鏡を使ってみよう (望遠鏡の操作および観察に関する基礎技能)		色1	色2	色3

表2:開講講座の種類と扱う内容分類

各科目について単位認定する。

各科目は100分以上の講義または実技講習を含む

内容は講座内容要綱に準拠する。

単位認定基準を定める。

講座の講師は運営委員会が選任する。講座講師は当該科目の単位を取得しているものとする。

5. 導入が可能になるのための3つの条件

本制度を広げる価値があると判断できるためには以下の3つの条件が必要と考えます。

ニーズ (人気): (これは完璧でした。)

星のソムリエになりたい(星や宇宙について隣人に語れたら、、、)という方、小規模の天文台・科学館・プラネタリウム・児童館などの職員の研修目的でおいでになる方、観光地での案内、音楽・山岳ガイドなどとのスキルとの融合を狙っているかた(これは新しい参加者層が天文教育に参画するといういみで大変こころ強いメンバーです)などから応募があります。また、応募者の地域も広域であり、人気・到達度も高い資格であることが伺われます。ニーズについては私たちが大いに自信を深めたところです。

容易性: (大体OK、ですが改善の余地あります。)

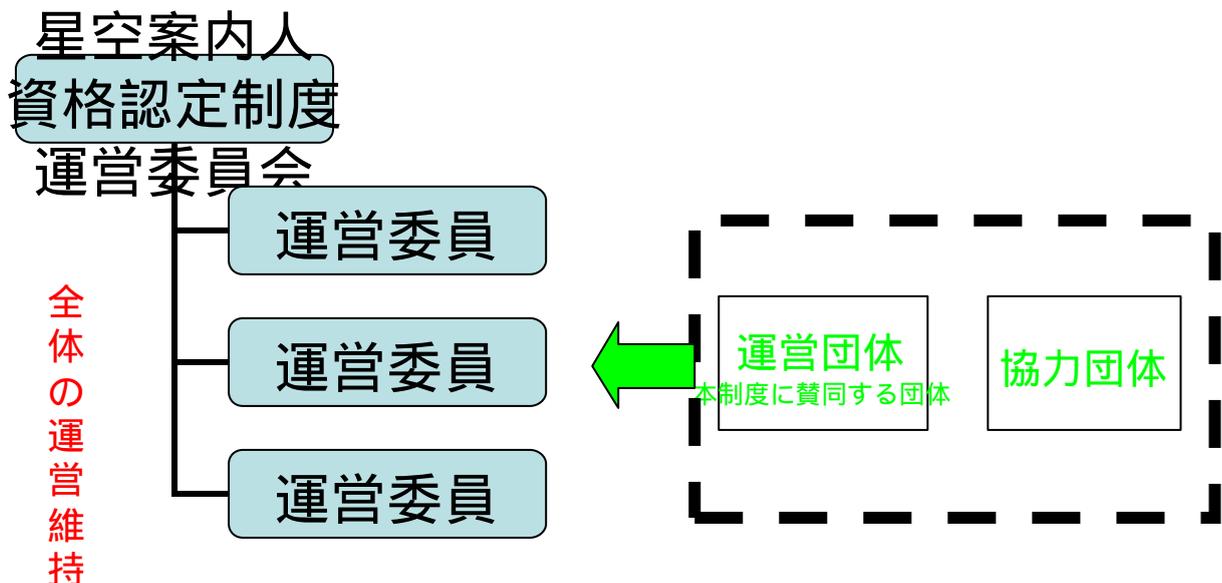
実技科目認定の仕組みづくり、単位の管理、地域の特徴を出す方法など今後の検討が必要です。また、実施機関が星のソムリエの活躍の場を提供することが重要で、これができれば実施は容易になります。逆に、活躍の場がなくて、単に認定だけをすればよいとする考えでは実施は困難です。

効果: (完璧)

開催地での活動の活発化が山形でははっきりしています。今後、各地で星空案内人がどのように活躍をするか注目されます。さらに、案内人が散らばって各地・各施設でボランティアを組織することも期待されます。山形では蔵王、月山などでコマーシャルベースでの求人が発生しています。

6. 運営体制

星空案内人を養成したい実施団体(共同体も含む)が連合して星空案内人資格制度運営委員会を作っています。実施団体が代表者を委員会に出します。委員会では、統一した資格基準を定めたり維持したりする仕事、運営を容易にする方法の開発などをおこないます。運営団体は独自に認定書を発行します。カリキュラムも全国共通部分を含んでいれば独自にカリキュラムを含むことができます。プラネタリウム、4次元宇宙シアターでの解説スキルとの融合した上位の資格創設も可能です。



現在の運営委員会参加団体

- NPO法人小さな天文学者の会
- 山形大学理学部、
- (山形県西置賜郡)飯豊町教育委員会、
- 郡山市ふれあい科学館、
- NPO法人三鷹ネットワーク大学推進機構、
- 和歌山大学宇宙教育研究ネットワーク、
- 兵庫県立西はりま天文台公園 (姫路科学館、明石市立天文科学館、兵庫県立西はりま天文台公園、加古川市立少年自然の家、姫路市宿泊型児童館「星の子館」との連携事業)



今後の予定

今年一年各地で実施した成果により、より改善したシステムを作り、2008年春に公開予定です。この新しいスキームで星空案内人資格認定制度の実施団体になりたい方を募集しております。お気軽に、hoshizora@sci.kj.yamagata-u.ac.jp までお問い合わせください。

また、資格のある星空案内人をうけいれてくださる団体もどうぞご連絡ください。

本制度の最新情報は以下のURLへ

<http://astr-www.kj.yamagata-u.ac.jp/yao/ann/index.html>



講座で使用するテキストが出版されています。こちらをご覧ください。

星空案内人になろう! ~ 夜空が教室。やさしい天文学入門
著者 柴田晋平/稲村陽子/大野寛/
佐藤和也/須貝秀夫/鈴木静児/玉虫良明/服部完治 技術評論社 価格:
1,659円(税込) ISBN 978-4-7741-3197-9